

行脚を通して伝わる 「神仏の慈悲」 …

大晦日からお正月にかけて大荒れの天候が続き、数年ぶりで雪の年越しとなりました。大荒れの天候も峠は越えた¹」の声²が耳に入ってきたかと思えば、十三日の初御講（はつおこう）³時にも魚津市は大雪警報が発せられる始末…。

誰だつたのでしょうか？「今年はや暖冬⁴」なんて言つた人（苦笑）？

しかし天然自然の現象つて、こういうものなのでしょうね。いくら科学技術が発達しても、人間の頭で分かります人智では、到底計り知れない世界を再認識させられたわけです。

地球という天然自然の母体の中で、やはり天然自然な私達人間は、大本である地球という母体から、感謝する心を忘れないで！⁵というメッセージを伝えられているように感じます。そういう意味で、年頭から、有り難いメッセージを受け取った私達の2010年は、幸先の良いスタートを切つたと言えるでしょう。

さて、私の拙い行脚記も今号でバ

ックナンバー第一 となりました。体験し、そして感じた事を簡略的に記してきました。が、いざ文章にしてみると、『真成寺』を出発して、ここまで5日間しか経っていないことに気付きました。行脚の全日数は約1ヶ月半でしたから、このままのペースで書き進めていくと、恐らく『人生ハンド仏句』で4、5年はかかりそうな勢いです（焦）。まあ、それはそれで良いんでしょうけど…。

少しテンポアップして話を進めていきたいと思えます。もう少しお付き合いの程を宜しく願います…。

奈良県は吉野山が『桜の名所』となつたのは、今から1300年前のことでした。桜の名所と言えど、私が訪れたこの日は2月20日です。桜の花見には、ちと早く、桜どころか、御山の木々や道中には、雪化粧をほどこした、凜とした御山の姿。桜も素晴らしいが、それより何より私は、吉野山の神聖さに感動した。

『人生ハンド仏句』11月号（No.92）では、『吉野山』の巡礼で、畏敬の念を肌身に感じる体験を記しました。

各所に祀られている神仏様は確かに尊い。しかし、その前に神仏の御本体が存在する。神仏の御本体とは、その御山全体（自体）である。その御山の

道中を、御題目を唱えて行脚する事で感じた『法悦』という温かい気持ち。この『法悦』は、真成寺の檀家さんや、信者さんの、一人でも多くの方々に、各々の実践行を通して、お伝えし、体験して頂く事が、今の私の夢・目標となりました。

『法華経』は、『南無妙法蓮華経』の7文字に集約することが出来ます。『南無妙法蓮華経』とは、人生を生きる上での実践行を説いた教えです。

『法華経』という現実直視の教えをしっかりと信仰することで、誰もが必ず『法悦』を体験する事が出来るのでしよう…。

翌日（21日）の7時、『蔵王堂（ざおうどう）』で始まる朝勤に参詣し、自身生まれ初めて『般若心経』を唱えた。基本的にはお経（仏様の教え）なので、お経本を見ればスラスラお唱えする事が出来た。（現在は『般若心経』に説かれる「空」についての意味的内容的勉強を深めている。）

吉野山に感謝の念を捧げ、次に目指した目的地は、『高野山』でした。『高野山』と言えば、弘法大師空海上人を冠する真言宗の総本山である。

『高野山』の下町に到着するまでの道端には、吉野山と同じく、雪道が続いていた。吉野山より、少し肌寒い気がした。

本日の宿坊である『蓮華院』に立ち寄り、御挨拶を済ませ、さつそく弘法大師がおわします『奥の院』へと歩を進めた。

日蓮宗身延山の『奥の院』と言えば、ロープウェイが設置されている事でも分かる通り、山の頂上にあります。しかし高野山の『奥の院』は、『奥の院表参道』から真つ直ぐ平地に約2^{*}の地点、そこに弘法大師空海の墓石がそびえ立っています。

2^{*}の道中は杉林に覆われており、映画『もののけ姫』を連想させられる物々しい雰囲気漂っていた。

歴史的に著名な豊臣秀吉などの武将や、法然上人・親鸞上人など各宗派の開祖僧侶など多数の墓石が、所狭しと立ち並んでいる。そんな参道の石畳を踏みしめて、気に留まつたためばしい墓石にお参りをしながら歩を進める。

歩を進める事約20分、ようやく到着したその場所には、沢山の信者さん方が我先にと、大きな声でお経を唱えていた。その雰囲気圧倒されつつも、辺りを見渡すと、ご祈祷受付が目に入る。『奥の院』では、明朝9時からの御祈願を受け付けていたので、護摩木（ごまき）に「国土

安穩・万民安樂」の念を込めて申し込んだ。

空海上人墓石の前で、法華経を唱え、「国土安穩・万民安樂」を祈願をする。その後、『蓮華院』までの道中、約50ヶ寺あるという各坊を祈願巡拝させてもらう。その中で数ヶ寺、やはり祈願を受け付けていたので、「国土安穩・万民安樂」を申し込む。

宿坊に選んだ『蓮華院』の本堂裏には、徳川家2代目から15代目までのお位牌が祀られていた。徳川家康の戒名は十文字以上あるらしく、おまけに神の存在として扱われていた為に、お位牌は無いそうだ。何はともあれ、歴史ある『蓮華院』に宿泊するのも何かの縁？

その『蓮華院』で修行僧の渡邊司清上人と知り合う事になる。彼との縁は生涯続いていきそうな気がした。後に詳しく彼の事を紹介しよう。

翌日、『蓮華院』の朝勤に参詣し、朝食を済ませ、最初に向かったのは、下町にひっそりと祀られている『稻荷神社』だ。

何気なく歩いていては見過ごし、しまいそうなくらい細い参道には、沢山の鳥居が立ち並んでいる。鳥居

をくぐって登りついた場所にお祀りされているお稲荷さんの宮。あそこでは、社務所も無ければ、誰もいない。お宮さんの後ろに、山肌が見えているような場所だ。そこでは何時間もお参りしていたくなる様な、そんな気持ちにさせてくれる霊力たっぷりのお宮さんだった。

そこでも「国土安穩・万民安樂」を祈願して、御題目を唱え、「またお邪魔します」と誓って、その場を失礼した。

次に私は再度『奥の院』に祈願巡拝させてもらった。そして総本山『金剛峯寺』、『靈宝館』、『金堂』、『根本大塔』での祈願読経と続けざまに各お堂を巡拝した。『根本大塔』は有り難かった。ここは、『金剛峯寺』よりも荘厳さがあり、霊力を感じた。お堂ではユツクリ読経をさせてもらった。次に『大使教会』、『大門の仁王像』を巡拝する。

『金剛峯寺』は思っていた以上に観光地化されているような感じがした。各お堂に、お坊さんの姿は無く、参拝者の方が多い。そしてお堂は観覧する場所となっており、お経の声は結局聞けることは無かった。

これまでも巡拝してきた神社仏閣も

同じ様な雰囲気ではあったが…ハッキリ言おう。

土地自体に宿る素晴らしい霊力は感じるもの、それを護り伝承していく人間の器が足りない、もしくは敢えてその様な形態をとっているのか…？

いずれにせよ、歴史あり、霊力たっぷりの聖地も、観光地化してきている事実は、本当に情けなく感じ、また残念でならない。

次の号へ続く…

合掌 副住職 谷川寛敬



節分というのは立春・立夏・立秋・立冬の前日のことをいいます。特に立春が1年の初めと考えられることから春の節分が最も重視されており、一般には単に「節分」といえば春の節分を指すものとなっています。これは立春を新年と考えれば大晦日に相当する訳で、そのため前年の邪気を全て祓ってしまうための追儺（ついな）の行事が行われます。それが「豆まき」です。

豆には鬼を退治する効果があると信じられていました。昔の人は、病気はすべて鬼のしわざと考えていました。そこで、悪いことをする鬼が来ないようにと願って豆をまいたというわけですが、つまり節分の豆まきは、一年の最後の日に鬼を退治して、新しい年をむかえるという行事です。